

人とともにある木曽ヒノキの美林



赤沢自然休養林

木曽地方の代表的なヒノキの美林

文と写真◎ 星野 大介 Hoshino Daisuke

森林植生研究領域

日 本の代表的な常緑針葉樹にヒノキがあります。材の色が美しく、芳香がして、強度もあり、湿気に強く、加工しやすい樹木です。古語で「ヒ」という音は「良い」を意味するため、ヒノキは「良い木」を意味するとの説があります。法隆寺の建築材として用いられたように、ヒノキは日本家屋の代表的な建築材として、いつも私たちのそばにありました。「檜舞台」「総檜造り」「檜皮葺」などの言葉もありますね。

ヒ ノキ科ヒノキ属は世界に6種ありますが、いずれも海岸線から250キロメートル圏内に分布していることから、意外なことに海洋と深いつながりのある樹木のようにです。日本のヒノキ属にはヒノキとサワラの2種があります。今日、ヒノキの天然木を多く観察できる場所は長野県木曽地方と岐阜県東濃地方です。これらの地域で産出された天然のヒノキ材は、年輪が密であることが特徴で「木曽ヒノキ」と呼ばれています。

木 曽地方は、年間降水量が2000ミリを超える多雨地域で、かつ火山起源の酸性火成岩の分布域でもあります。そのため地面にはボドゾル土壌が形成されます。この土壌は強酸性で地方が痩せているため、落葉広葉樹だけが優占することなく、ヒノキなどの常緑針葉樹が混交した林が育ちます。

安 土桃山時代から伐採・利用され続けてきた木曽ヒノキですが、その資源量は再生と減少を繰り返してきました。いまでも木曽ヒノキは神社仏閣など日本の大切な文化財の修復に欠かせない木材です。今後も減らすことなく維持していくことが、地域や関係者の大きな課題となっています。



緻密な木曽ヒノキの材

冷涼な気候でゆっくりと育つことから年輪幅が密で、狂いの少ない緻密な材となる。



この印刷物はグリーン基準に適合した印刷材料を使用し環境配慮されたグリーン印刷を行っています。

リサイクル適性の表示：
紙へリサイクル可

19.03.10000